

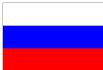
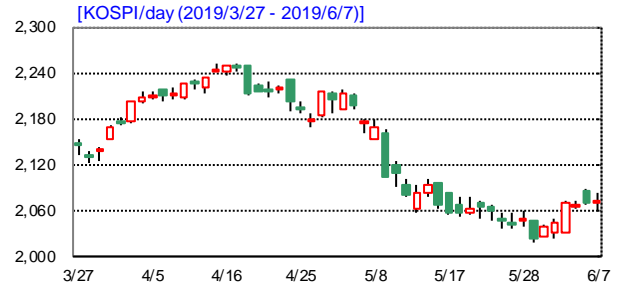


## 【韓国】 総合指数は週間で1.5%高と5週ぶり反発、今週も貿易摩擦が焦点か

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.5%高と5週ぶりに反発した。6日が戦没者慰霊日で休場のため4日間のみの取引。前週の半ばに約5カ月ぶり安値を付けただけに、買い戻しの動きが続いた。週明け3日は為替市場で米ドルに対して韓国ウォンが上昇した流れを受けて韓国からの資金流出懸念が和らぎ、前週末比で1.3%高。サムスン電子など主力のハイテク株が上昇を主導した。ただ、米国と各国の貿易摩擦が長期化すると懸念は根強く、4-7日は上値の重い展開となった。5日は米利下げ観測の高まりを受けて朝方は0.9%高まで上昇する場面もあったが、その後は次第に上げ幅を縮小。休場明けの7日は小幅に続伸し、約3週ぶり高値で終えた。今週も貿易摩擦の動向が引き続き焦点か。国内では金融統計、貿易統計などが発表される。

▼指数チャート

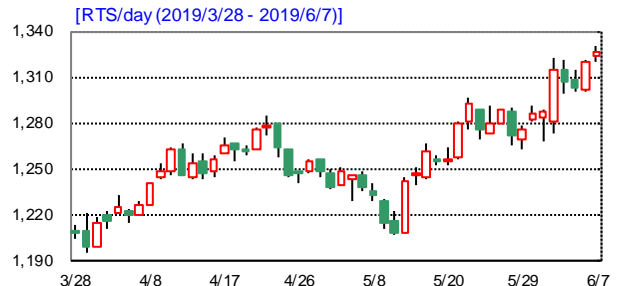


## 【ロシア】 RTS 指数は3.0%高と4週続伸、今週も主要国の金融緩和期待が支援か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で3.0%高と大幅に4週続伸。企業の増配や利下げ観測、原油高、ルーブル高などが好感され、指数は約5年ぶりの高値を更新した。週明け3日はガスプロムが配当を大きく増やすとの報道を受けて9.5%高と急伸し、指数は5月29日から4日続伸。その後、原油が売られる場面では指数も下落したが、ロシア中央銀行が近く利下げに踏み切る可能性を示唆したことで指数は再度上昇。原油相場の反発やそれを受けたルーブル高も支援となり、指数は7日に1325.95ドルと終値で約5年ぶりの高値を更新した。個別銘柄では、天然ガスのガスプロム(7.2%高)、金融のズベルバンク(6.4%高)、産金のポリウス(5.6%高)などの上昇が指数を押し上げた。今週は、主要国の緩和的金融政策への期待が引き続き支援となるか。

▼指数チャート



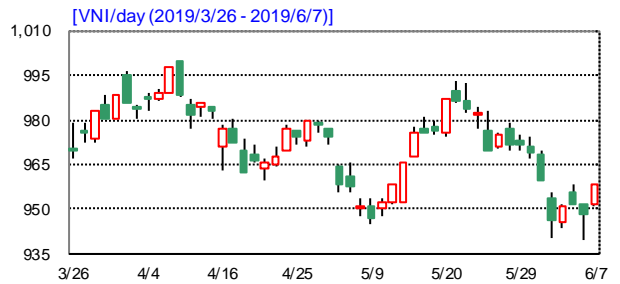
## 【ベトナム】 ベトナム指数は0.2%安と3週続落、今週は米利下げ期待で出遅れ買

### いか

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.2%安と3週続落。米中貿易摩擦や米国・メキシコ間の関税問題を受けて週明けに大きく下落したことが響いた。週初の3日は海外リスク要因に加え、足元の弱いモメンタムが意識され、指数は1.4%安の946.47ポイントと2月13日以来の安値で終了。時価総額上位のベトナム投資開発銀行、ベトナム石油総公社、ペトロベトナム・ガスが3%近く下落し、指数を押し下げた。その後は米利下げ観測の高まりなどを背景に世界的にリスク回避が後退し、VN 指数も値を戻したが、週初の下げを埋めるには至らなかった。個別銘柄ではホアファットグループ(7.1%安)、テクコムバンク(4.4%安)、ベトコムバンク(2.4%安)などが下落。今週は米利下げ観測を支援にベトナム株にも出遅れ買いが向かうか。

▼指数チャート

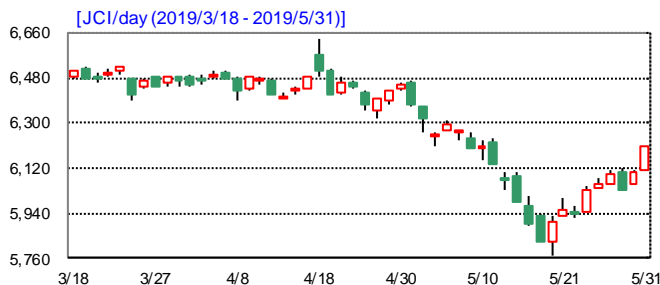


## 【インドネシア】

### 【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は断食明け大祭の連休で休場、今週は5月のCPIが焦点

ジャカルタ総合指数は断食明け大祭の連休で1週間を通じて休場。取引を再開する今週は10日の5月のCPIに続き、14日には4月の小売売上高が発表される。外部要因では、前週末のNYダウが約1カ月ぶりの高値を付けたことが追い風。7日発表の5月の米雇用統計は非農業部門の雇用者数の伸びが市場予想を大幅に下回り、景気拡大の維持を目指すFRBが利下げに踏み切るとの観測が買いを誘った。米中貿易戦争による経済への影響が懸念される中、先週4日にはパウエルFRB議長が利下げの可能性を示唆。インドネシア中銀も定例の金融政策決定会合を翌週に控えており、市場でも動向が注視されそうだ。

#### ▼指数チャート

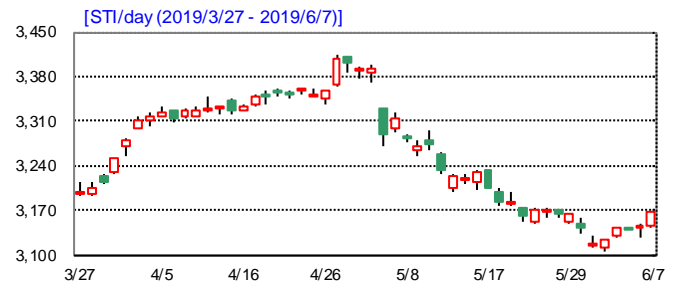


## 【シンガポール】

### 【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は1.6%高、世界的な金融緩和期待で5週ぶりに反発

ストレーツタイムズ指数は4日間の取引で1.6%高と5週ぶりに反発。前週末までの反動でじりじりと上値を広げた。週初の3日は約5カ月ぶりの安値を更新した前週末から5営業日ぶりに反発。4日は前日の取引終了後に発表された5月の製造業PMIが49.9と2年9カ月ぶりに50ポイントを下回ったものの、世界的な金融緩和への期待感から金融株を中心に買い優勢の展開となった。祝日を挟んだ6日も小幅ながら上昇し、結局、7日まで4営業日続伸して取引を終えた。今週は12日に4月の小売売上高が発表される予定。外部要因では中国の5月の貿易統計や固定資産投資などの経済指標が焦点になりそうだ。

#### ▼指数チャート

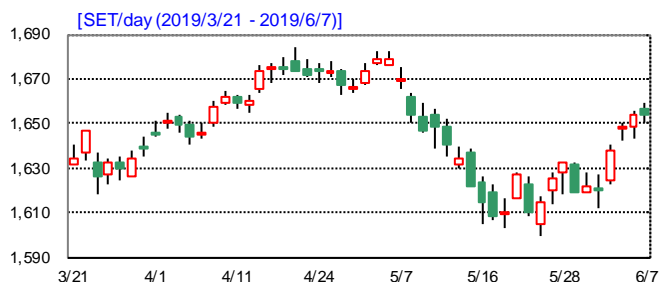


## 【タイ】

### 【先週の動き／今週の展望】SET指数は2.1%高、プラユット首相の続投決定で経済成長に期待

SET指数は4日間の取引で2.1%高と3週続伸。週末まで4日続伸と堅調だった。連休明けの4日は5月のCPI上昇率が前年同月比1.2%と市場予想から上振れし、前月並みの伸びを維持したことが好感されて指数は終値で前営業日比1.1%高と反発。5日はパウエルFRB議長の利下げを示唆する発言を受けて前日のNYダウが上昇した流れを引き継ぎ、続伸した。6日は前日に軍事政権のプラユット暫定首相が新首相に選出され、政局の安定と経済成長に対する期待感の高まりで買われ、7日には約1カ月ぶりの高値を付けて引けている。今週は国内の需要イベントが少なく、外部要因が相場を左右する展開か。

#### ▼指数チャート

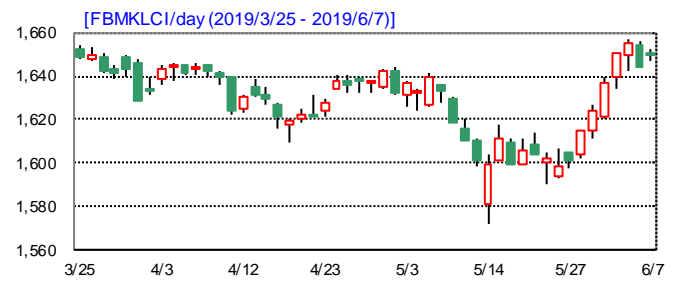


## 【マレーシア】

### 【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は0.1%安、1650ポイントを挟んでもみ合い

クアラルンプール総合指数は3日間の取引で0.1%安と前週からほぼ横ばい。1650ポイントを挟んでもみ合った。週初の3日は、4月の輸出額が前年同月比1.1%増と市場予想の1.0%減から上振れしたことが好感されて6営業日続伸した一方、断食明け大祭の前日のため半日立ち合いとなった4日は、買い材料に乏しく反落。連休を挟んだ7日は5月の米雇用統計の発表を目前に控えた様子見ムードが広がる中、小幅に買い戻されて取引を終えている。今週は11日に4月の鉱工業生産と小売売上高が発表される予定。外部要因では世界各国の利下げに向けた動きや、解決の糸口が見えない米中貿易摩擦の行方が焦点。

#### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。